

# カキの整枝・せん定

県北農林事務所伊達農業普及所  
J A ふうくしま未来伊達地区あんぽ柿生産部会

## 1 整枝・せん定の前に

カキは、本来高木性で、せん定しなければ樹高が 10m 以上の大木になることも珍しくない。さらに、枝が混み合うと日照不足となり収量や果実品質が低下するほか、農薬を散布しても十分に付着しない。作業性や安全性、高品質な原料柿生産といった面から、整枝・せん定は重要である。

## 2 樹形の育成

### (1) 若木から成木までの流れ

#### <主幹形>

若木のうちは枝が立ちやすいため、主幹をまっすぐ伸ばした樹形（主幹形）で管理する。間引きを主体とする弱せん定により、なるべく枝を多く残すことで、上方向への伸長抑制を図るとともに、早期着果を促し、枝の開帳を図る。

#### <変則主幹形>

結果期に入り枝が開張してきた頃（定植 5～6 年目）には、主枝候補枝を明確化する（変則主幹形）。この時期は、主枝候補枝に日光が良く当たるよう主幹延長枝を小さく維持し、また各枝の勢力バランスを調整する。主枝候補枝は水平に近い角度で発生したものが好ましいが、そのような枝が無い場合も多いので、若木（定植 2 年目頃）の時期から側枝を誘引するなどして計画的に育成するのが望ましい。なお、主枝（主枝候補枝）は基本的に 3 本とし、それぞれ上から見て 0 時方向、4 時方向、8 時方向に配置する。

#### <遅延開心形>

主枝候補枝が十分に発育してきたら、主枝を決定し、主幹は切り下げる（芯抜き）（遅延開心形、図 1）。芯抜きを急ぎすぎると主枝候補枝が暴れて立ち上がり、切り口も枯れ込みやすいため、主枝候補枝より上にある側枝を数年かけて基部に近い側から間引き（追い出しせん定）、勢力が落ち着いたら数年かけて徐々に主幹を切り下げて第 3 主枝から 30cm 程度の位置まで切り下げていくのが望ましい。なお、切り口付近には癒合促進のため発育枝を 1～2 本残し（写真 1、2）、かつ 5 月頃には不定芽をかき取って余分な枝が出ないようにする。主枝がさらに発育したら、それぞれの主枝上に亜主枝を 2 本配置する。

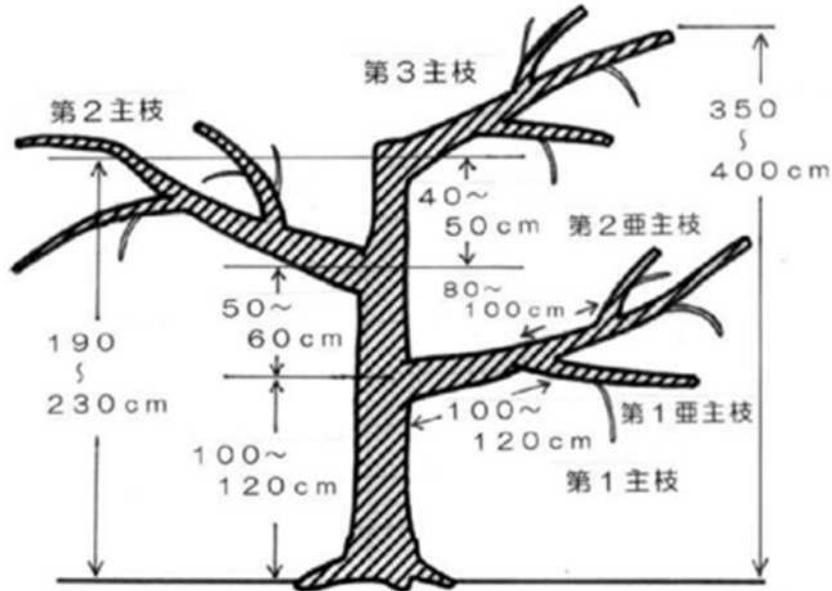


図1 カキの目標樹形（遅延開心形）

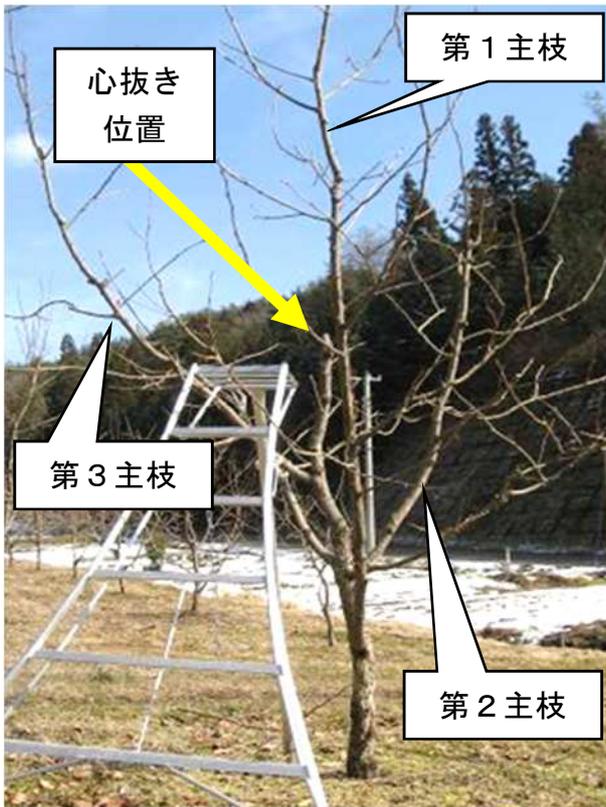


写真1 比較的若い樹の心抜き



写真2 大型化した主幹延長枝の心抜き  
 ※次年はAかBで切り、最終的にはC  
 (第3主枝から30cm上)で切る

### 3 休眠期せん定の実際

#### (1) 縮・間伐、骨格枝の整枝・せん定

樹と樹の間隔が狭くなっている場合は、日照条件が悪くなるほか、作業性も悪く、散布した農薬も付着しづらい。その場合は最初に縮伐あるいは間伐し、密植状態を改善する。また、骨格枝（主枝や垂主枝）同士の間隔が狭くぶつかっている場合も、せん定だけでなく誘引や支柱立てによりこれを解消する。

## (2) 側枝のせん定

主枝・亜主枝上の側枝は、できるだけ立体的に配置する(図3)。

樹勢が落ち着いた樹は側枝が果実の重みで下垂してくるため、切り戻し(切り上げ)により、極端な下垂を改善する。「蜂屋」では、収穫時に先端が適度に下垂するような側枝で良い原料柿が生産されるため、水平に近い下垂枝は切り戻さずに適度に残す。

原料柿は結果枝(撞木:しゅもく)ごと収穫するため、枝数が減少する。このため、陰芽の発生を促し、安定的に小枝(結果母枝)を確保することを目的として、適宜、年次の変わり目の少し先の部分で切り詰める(写真3)。

また、主枝や亜主枝等の骨格枝の先端に結実させると、先端部が下垂して樹形が乱れるため、伸ばす枝の先端は結実させないよう先刈りする。

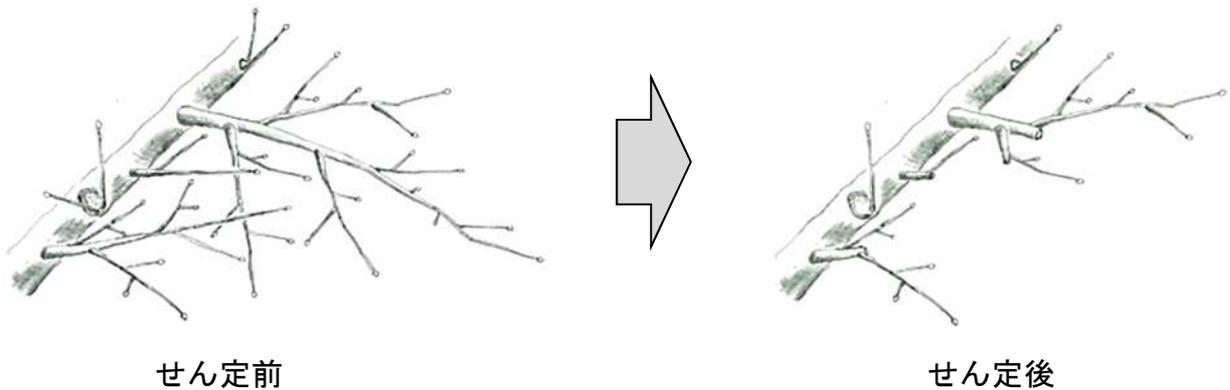


図2 側枝の切り戻し並びに結果母枝の配置



写真3 次年以降に結果母枝を確保するためのせん定

## (3) カキの結果習性に基づく結果母枝のせん定と確保

カキでは1年枝の先端側3~4芽から花蕾をつけた新梢(結果枝)が発生する(図3)。それより基部の芽は新梢に花が付かないか、発芽しないことが多い。長さが15~30cm程度で、芽と芽の間が詰まっていて、基部から先端まで太さが変わらない充実した1年枝(結果母枝)から発生した結果枝は、一般に結実や果実品質が良い。休眠期せん定では、このような良好な結果母枝をなるべく多く配置し、一方で直立した強勢な結果母枝や、下垂して衰弱している結果母枝はせん除する。

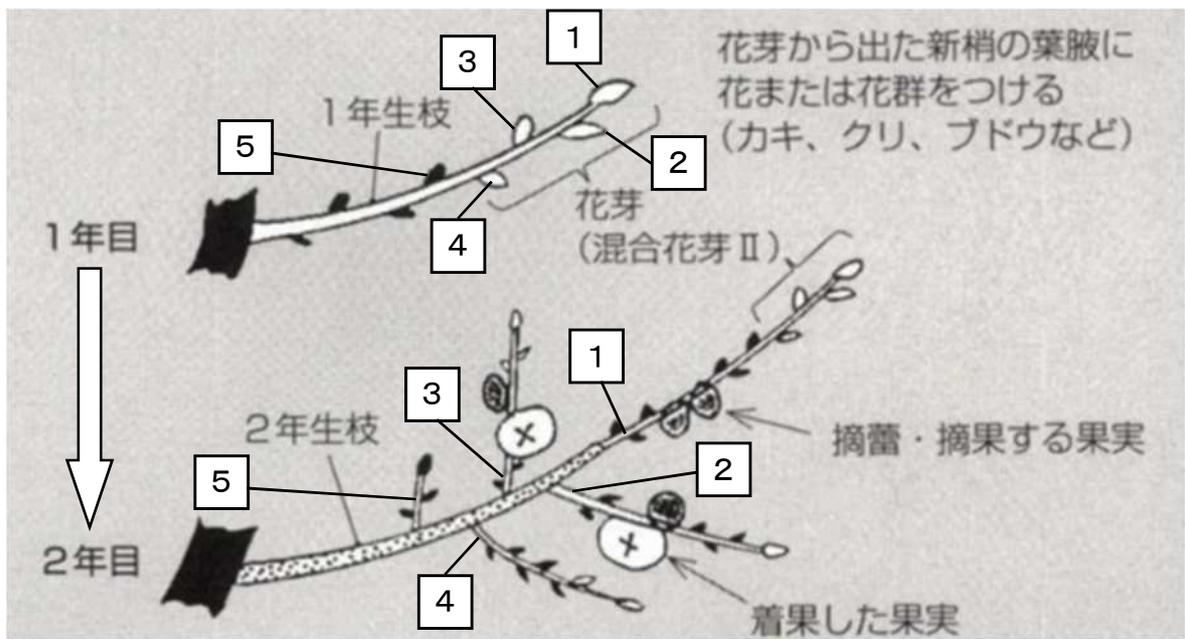


図3 カキの結果習性と新梢生育 ※ 1~5は1年目の芽と2年目の新梢で対応

#### 4 越冬病害対策

炭疽病は落葉痕や芽などでも越冬するが、主要な越冬場所は枝病斑である（写真4）。黒星病の伝染源は主に枝病斑であり、弱せん定樹や放任樹で多い（写真5）。

休眠期せん定時には両病害とも、越冬菌密度低下のため枝病斑のせん除を徹底する。同時に、生育期期間におけるほ場内の通風や日照条件の改善による感染拡大防止を図るため、枝の混雑解消にも配慮する。



写真4 炭疽病の枝病斑



写真5 黒星病の枝病斑

- ◎ 体調管理や農作業事故に注意して、作業を進めましょう！
- ◎ 農薬は、正しく保管・使用し、必ず使用簿に記帳しましょう！
- ◎ 適切な生産工程管理のため、GAPシートで確認しましょう！
- ◎ 気象災害に備えるため、収入保険に加入しましょう！
- ◎ 地域農業を守るため、地域計画（旧人・農地プラン）を作りましょう！
- ◎ 農地の貸借は、農地中間管理機構（農地バンク）を利用しましょう！